

PET サマーセミナー2019 in 福島 印象記

田所 匡典
Tadokoro Masanori

PET サマーセミナー2019 in 福島は2019年8月23～25日、福島県福島市「コラッセふくしま」にて、福島県立医科大学・伊藤浩大会長のもとで開催されました。副大会長は浦部真平先生と織内昇先生が、実行委員長は久保均先生が務められました。今回の大会テーマは「PETの未来」、福島県のキーワードとなる「復興」とは未来を創ることであると、大会長の思いが込められています。

コラッセふくしまは、JR福島駅西口に隣接の公共複合施設で、会議場以外にも図書館、福島観光物産館も併設し、お土産の調達に重宝しました。

15:20 伊藤浩大会長により開会が宣言されました。続いてワークインプログレスが行われ、装置メーカー5社によるPET高分解能化技術に関する発表が行われました。ワークインプログレスは従来、PETサマーセミナーならではの突っ込みがあり、各社の最新技術に関する裏情報等が少し漏れたりもしたのですが、近年はメーカーの口が堅く、少しずつ趣旨に合わなくなってきたようにも感じられました。

18:00からイブニングセミナーが、19:10には夜の学校が始まりました。例年どおりの臨床、技術、薬学、看護に加え、「理工学・基礎」を含む、5会場で並行して行われました。理工学・PET基礎研究に携わる方が多く活躍されている東北、東日本ならではの配慮が伺えました。看護のセッションでは医療被ばくをテーマとした講演に加え、サーベイメータを用いた線量測定演習も行われ、好評であったと伺っています。また、夜の学校では、例年どおりビール等の酒類が持ち込まれ、饒舌な発表、討論となったと思います。子供用ビニールプールに、駄菓子の

小袋がてんこ盛りされており、楽しい演出に心なやみました。夜の学校は21:10に終了となりましたが、隣接するホテル（ザ・セレクトン福島）に移動して情報交換会が深夜まで催され、大宴会場が狭く感じるほど、多くの参加者で埋め尽くされていました。

2日目は早朝に会員総会・施設代表者委員会がザ・セレクトン福島で開催されたのち、9:00から4会場にて講演形式のセッションが行われました。ランチョンセミナーの後、13:15からは伊藤浩先生の大会長講演が行われましたが、PETに関するご講演ではなく、エクスカッション、浪江町視察「被災地の今」に関する趣旨説明と福島県出身の伊藤大会長の熱い思いが語られました。続いて「まちづくりなみえ」の浪江町復興支援コーディネーター菅野孝明様より「福島県浪江町復興の歩み」と題したご講演がありました。

14:00頃からは予定より早く、エクスカッションが開始されました。観光地訪問ではなく、「被災地の今」として浪江町視察が企画されました。希望者全員が参加できるよう、バス9台が準備され、多くの人に参加を促すため、経費は運営費から支出されたと伺っています。私自身、今回の企画で、やっと訪問することができ、大変良い機会を得ることができました。伊藤大会長には大変感謝致します。一方で実際のバス移動は結構苦痛であり、全国3位を誇る福島県の大きさを実感致しました。浪江町に向かう道中では、CDに録音された「まちづくりなみえ」の菅野様の解説がバス車内で流され、車窓に映る景色と対比しながら移動しました。国道114号線を通して浪江町まで往復しましたが、途中、自動車

通過のみが許された帰還困難地域を通過する際は、老朽化しつつある家屋・建物、私有地への立ち入り阻止するバリケード、ブッシュ化して荒れ果てた農地等が目立ち、ふるさとを奪われた住民の方々を思うと、心が痛みました。また、本誌当コーナーの名称にも採用されている、モニタリングポストが県内随所に設置されており、本来の数倍、またはそれ以上の数値を目の当たりにし、放射能、放射線利用を生業とする私にとって、今更ながらに、何でこんなことになってしまったのかとの思いが強くなりました。

浪江町での訪問地は2か所で、最初は請戸漁港です。既に漁港は復旧が進み、試験操業が行われているとのことでした。新しい堤防も大部分完成しているものの、堤防の内側には荒野が広がっており、倒壊寸前ながら流されなかった建物が少数点在していました。元のような居住区域にはならないと知り、津波のすさまじさを実感しました。漁港を後にし、大平山霊園の慰霊碑を訪れました。結果として放射能汚染は少なかったものの、避難指示が発表されたために、津波被災者に対する十分な救助活動ができぬまま、その場を去らなければならなかった無念をお聞きし、目が熱くなりました。

足早に訪問を終えると、再び2時間をかけ、19時過ぎ、福島駅前に戻りました。19:30からはザ・セレクトン福島にて懇親会、情報交換会が行われました。印象的だったのは、共催されたJA福島厚生連のご協力により、数十種類に及ぶ沢山の銘柄の美酒が懇親会場に並びました。5~6銘柄のお酒をいただきましたが、いずれも大変美味しく、存分に楽しませていただきました。

3日目、最終日は5会場に分かれ、一般演題を含むセッションが行われました。また、4階ホールで

は、大会期間中を通して、例年どおり、企業展示が行われました。15社の関連企業がブースを構えましたが、加えて、JAによる桃販売のブースもあり、福島県産の美味しい桃を注文して帰り、後日楽しまれた参加者も多かったのではないかと思います。

最終的な参加人数は593名であったとお伺いしました。大変多くの参加者に、盛りだくさんの内容で、大変充実したPETサマーセミナーであったと思います。誌面をお借りし、改めて伊藤浩大会長、ならびに実行委員、プログラム委員の皆様へ感謝申し上げます。

来年のPETサマーセミナーは筆者が大会長を務めさせていただき、2020年8月28日~30日、岐阜県下呂温泉・水明館にて開催致します。大会テーマは「Diversity and Fusion 多様性と融合の結晶 PETを囲んで」です。PETは研究・開発から実用化、臨床まで極めて他職種の人々が関与して成り立っています。装置も統合型のPET/CT、PET/MRが主流で、融合画像が標準となりました。2020年は世界中から多くの人々が訪れ、多様な文化、人々への対応が求められます。その中で、多様性を生かし、英知を融合して作られたPETを囲んで、大会を運営できることを誇りとし、関係者一同、心待ちにしております。

下呂温泉は日本三名泉のひとつに数えられています。知名度は高いものの、岐阜県飛騨地方に位置し、お越しになる機会も多くないかと思います。是非この機会に、下呂温泉に集い、PETを囲む多くの仲間と共に、次世代を見つめ、夢と現実を語り合う場にしていただきたいと思います。

(ハイメディック名古屋・トラストクリニック)